参考資料　（1）基本構想

魚津市大町コミュニティセンター整備事業　基本構想

1．基本理念

歴史と文化を受け継ぎながら、多世代が集い交流するとともに、災害に強い安心・安全なまちづくりの拠点となるコミュニティ施設

世代や立場を超えて人と人とがつながり支えあう「地域共生の場」
災害時に地域を守る「安心・安全の場」
歴史資源を次世代に伝え地域内外に発信する「歴史文化継承の場」

2．基本方針

（1）施設の目的

魚津市大町コミュニティセンターは、コミュニティ活動や地域防災をはじめ、地域住民の学びや交流の拠点となる施設です。

① 多世代が集う地域の居場所となる施設

子どもから若者、高齢者まで、誰もが気軽に立ち寄り、思い思いの時間を過ごせる地域交流の場とするほか、健康体操や談話を通じて高齢者の生きがいと健康を支えるとともに、次世代を担う子どもや若者が活気ある活動に取り組むことができる施設とします。また、世代間の壁を越えて住民同士が緩やかにつながり、地域全体で支え合う共生社会実現の拠点施設とします。

② 地域防災の中核を担う防災拠点となる施設

地域の一部が津波浸水想定区域に位置することを踏まえ、日常の利用と有事にも地域を守る防災機能を両立した防災拠点施設とします。

③ 地域住民の学びと交流活動の拠点となる施設

地区住民の学習や文化活動を推進し、地域住民の相互協力、連携を促す地域活動の拠点となる施設とします。また、地域資源を活用した体験活動事業を展開し、市内外から訪れる人々との交流が深まる施設とします。

④ 地域の歴史資源を継承・発信する施設

魚津城跡や米倉など地域の歴史資源を活かし、地域の誇りを次世代へ伝え、地域の魅力を地域内外へ伝える、歴史・文化の情報発信拠点とします。

（2）建築・設備

① 施設周辺の環境と調和のとれた建築デザインとする。
② 災害、特に地震や津波・洪水の浸水リスクに対応した強度と設備を持つ。
③ 諸室（スペース）は連携しやすく、効率的に利用できる配置とする。
④ 低ランニングコストを追求し、維持管理が容易となるように工夫する。
⑤ 資材や設備類は特殊なものではなく汎用品とし、柔軟に改良・更新が可能なものを選定するとともに、将来を見据えた整備を行う。